



新使徒教会とは

1830年にスコットランドにおいて聖霊による信仰の覚醒運動（リバイバル）に端を発し、春の雨、後の雨として（ヨエル書 2:23、同 3:1）

1. その起源
 2. その特長
 3. 発展
 4. 目標（標榜）
 5. 礼拝
-

1. その起源：1830年、スコットランドのクライド・バレーの寒村に住む農夫キャンベル氏とその二人の娘、イザベルとメアリーは預言の賜物と幻を見る賜物を持っていました。メアリー・キャンベルは重い肺結核で死の一步前におりました。或る夜、彼女は黙禱に没頭していましたが、その時、二人の友人が来訪しておりました。すると、突然彼女は起き上がって二人の前に立ち、そこに居合わせていた人は誰も理解できない言葉で話したのです。コリントの教会にも種々の異言を語る賜物を持った信者がおりました（コリント一、12:10）。

こういった賜物がメアリー・キャンベルを介して現れたのです。彼女は自力ではこういう不思議な言葉は語れませんでした。上よりの力に満たされたので、居合わせていた一同の者と共に異言を語り、預言をすることができたのです。キャンベル氏は天来の力によってメアリー嬢を完全に癒すことができたのです。これは1830年3月21日に起こった出来事で、初期の使徒教会が迫害によって消滅してから、1800年も絶えてなかった神の奇跡でした。

この霊の炎はロンドンに移され、ここでも預言の霊が働き、これによって使徒たちが指名されて、**使徒職が再興されたのです**（1832年）。新約でも使徒パウロは**使徒とその務めが不可欠のもの**として述べています（エフェソ 2:20、同 4:11）。主エスもこのことを神のみ旨として明言されました（ルカ 11:49）。

2. その特長：初期の使徒教会の直接の継承であるキリストの教会です。
聖霊による証印（使徒言行録 8:17,同 19：1～6,エフェソ 1：13～14）、聖礼典（ sacrament）の執行、説教などです。
牧会者（奉仕者）は説教はじめ、冠婚葬祭など、すべての祭り事を無報酬で執り行います。殆どの奉仕者は自ら働いて生計を立てます。
3. その発展：英国の諸事情により、この使徒職は 1860 年にドイツに移され、1863 年、使徒シュヴルツ氏の指導のもとに「新使徒教会」という呼称で新たな出発をし、現在、全世界で公に宣教しています。独裁国家数ヶ国を除き、北はアイスランド、グリーンランド、南はアルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド、諸大陸に及びます。使徒職を担う者、約 430 人。会員総数は 2004 年末で 10,800,000 人。
全世界（全教区）の代表者：主使徒レーバ氏（在スイス国チューリッヒ市）
日本教区代表：教区伝道師 矢幡賢治（やはた よしはる）
4. 信仰の目標（標榜）：主イエス・キリストの御約束である主イエスの御来臨（再臨）を待望しつつ、この大いなる再臨の日に魂を用意すること。
5. 礼拝：これは教会の諸行事の中でも最も重要なもので、神が人の魂に僕（しもべ）らを通して、御言葉と恵みをもって奉仕されます。これは簡潔、厳粛に執り行われます。献金は月定献金とか席上献金という形は取らず、自由に所定の献金箱に入れます。特別礼拝行事としてクリスマス、聖金曜日礼拝、復活祭礼拝、昇天礼拝、ペンテコステ礼拝など。
※教会員のよって立つ姿勢：初代の使徒教会のそれと同様に、**使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くことと祈ること**（使徒言行録 2:42）を実施することです。この四本の柱に支えられている教会です。